

## 〔大豆〕

### 1. 作付の概況

本年度の作付面積は全国で 142,100ha で前年より 8,100ha 増加したが、九州では 22,500ha でほぼ前年並であった。県別では福岡県と佐賀県で作付面積が増加したが、その 2 県以外では減少した。特に大分県での作付けの減少が大きかったが、その要因は明確でない。収量は、播種時期の遅れや台風 13 号と生育後半の少雨で平年よりも低く、九州では前年対比 66 であった。特に福岡県、佐賀県、大分県、長崎県での作況が平年よりも低かった。

### 2. 作況の概況

6 月下旬から 7 月下旬頃まで降水量が多く推移し、梅雨明けは 7 月 25 日頃で平年より約 1 週間遅れた。そのため、7 月下旬以降の播種も多く、播種後の降雨による出芽障害で再播種した圃場もあった。梅雨明け後に播種した圃場では、乾燥による出芽障害もあった。出芽後の生育は順調であったが、播種時期により生育量もばらつきがあった。開花期は、播種時期が遅れたため平年より若干遅かった。着莢期から莢伸長期である 9 月 17 日頃に台風 13 号が来襲し、多くの地域で倒伏などの原因となった。とりわけ、佐賀県南部の有明海沿岸では南東からの強い潮風で倒伏とともに上位葉や中下位葉の葉縁部が萎凋白化する症状が発生し、青立ち株が多く発生し、作況低下の要因となった。

県別では、福岡県は降雨による播種時期の遅れ、台風による倒伏、登熟期の乾燥で稔実莢数や整粒数が平年より少なくなり、収量は平年より低く検査等級も劣っていた。佐賀県は着莢期～莢伸長期の 9 月 17 日に台風 13 号が接近し、有明海沿岸では南東からの強い潮風で青立ち株が多く発生した。また、内陸部の圃場でも倒伏が多かった。長崎県は降雨による播種遅れが多かった。開花期から着莢期に来襲した台風 13 号で倒伏と潮風害が生じ、また、登熟期の少雨で子実の肥大抑制があった。熊本県は降雨のため 7 月中旬の播種が多く、播種後の降雨と寡照で開花期までの生育は遅れ気味であった。8 月 18 日に台風 10 号、9 月 17 日に台風 13 号が襲来し、強風が倒伏の要因となった。台風 13 号の通過後は高温・少雨による小粒化がみられたが、莢数は確保され、収量は平年並であった。大分県は降雨で播種は 7 月 3～4 半旬および 8 月以降に集中し、7 月 5 半旬の豪雨による出芽障害で一部再播種も行われた。また、台風 13 号の風雨で少程度の倒伏があり、一部沿岸部では潮風害による枯死もあった。宮崎県は 7 月中旬の降雨で播種のピークは 7 月下旬となったが、出芽は良好で 8 月中旬まで気温は平年並、少雨多照で推移し、生育は良好であった。台風 10 号、台風 13 号の被害は少なく、収量は過去 2 年よりかなり多く、平年並からやや良の作況であった。鹿児島県は、7 月の降水量は県北で多かったが、それ以外の地域は少なく干ばつ気味に推移した。

(九州沖縄農業研究センター 中澤芳則)

2006年産大豆作付面積と収穫量

県別	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	作況 指数	前年との比較					
					作付面積		10a当たり収量		収穫量	
					対差	対比	対差	対比	対差	対比
	ha	kg	t		ha	%	kg	%	t	%
全 国	142,100	161	229,200	96	8,100	106	△ 8	96	4,200	102
九 州	22,500	111	25,000	68	△ 100	100	△ 58	66	△ 12,800	66
福 岡	8,110	113	9,180	58	320	104	△ 82	58	△ 6,020	60
佐 賀	7,490	117	8,730	61	120	102	△ 76	61	△ 5,470	61
長 崎	546	82	448	61	△ 71	88	△ 52	61	△ 379	54
熊 本	3,080	127	3,910	103	△ 20	99	△ 1	103	90	102
大 分	2,420	70	1,690	66	△ 430	85	△ 48	66	△ 1,330	56
宮 崎	457	121	553	192	△ 9	98	58	192	260	189
鹿 児 島	386	120	463	106	△ 20	95	7	106	4	101

注) 農林水産省、2007.6.26公表データを引用